

在シドニー総領事通信

第 57 回 ダーウィン空爆から 80 年：未来への基盤をつくる

令和 4 年（2022 年）3 月 1 日



伊号第 124 潜水艦の乗員 80 名を記した新慰霊碑を除幕した
山上駐豪大使とガナー北部準州首席大臣（2022 年 2 月 18 日）

今年の 2 月 19 日は、ダーウィン空爆から 80 年に当たります。山上信吾駐豪大使とダーウィンに出張して、一連の行事に出席しました。過去の戦争の犠牲者とともに追悼し、和解と協力の歴史を振り返ることを通じて、日豪の将来に向けての基盤を強固にする機会になったと感じました。

今回の総領事通信では、山上大使の[南半球便り](#)に続き、この出張の概要を報告しながら、ダーウィンでの日豪の歴史が未来に向けて持つ意義について、皆様と一緒に考えたいと思います。



北部準州議会で演説する山上大使（2022 年 2 月 17 日・北部準州政府提供）

●山上大使の北部準州議会演説

私は 2 月 16 日にダーウィン入りし、翌日以降の一連の行事の下準備を行いました。17 日昼にはキャンベラから山上大使が到着し、同日午後に北部準州議会で演説を行いました。日本大使が北部準州議会で演説を行ったのは、1974 年に同議会が開設されてからおそらく初めてで、ダーウィン空爆 80 年の節目にふさわしい歴史的な機会だったと思います。

山上大使はこの演説で、日豪間の和解と友好・協力の歴史を振り返るとともに、北部準州での日豪共同訓練など安全保障・防衛協力、INPEX の天然ガスや水素、ニッスイの海老養殖、宇宙など経済関係、観光や文化交流、日本語教育を取り上げて、未来に向けて一層の関係深化の重要性を訴えました。

北部準州議会の議場で、全 25 名の議員がこの演説に耳を傾けていました。更に、首席大臣と副首席大臣、野党党首と副党首から、山上大使への歓迎とともに日本との関係を重視する温かいことばが寄せられました。これらの全てのやりとりは、翌 18 日に議事録としてインターネット上で早速公開されました。



伊 124 新旧慰霊碑と癒しの木（2022 年 2 月 18 日）

●伊号第 124 潜水艦新慰霊碑除幕式典

2 月 18 日午前、伊号第 124 潜水艦の乗員 80 名を記した新慰霊碑の除幕式典が行われました。同潜水艦がダーウィン空爆の約 1 か月前にダーウィン沖で沈没し、乗員 80 名全員が戦死した経緯は[先月の総領事通信](#)でお伝えしたとおりです。

2017 年のダーウィン空爆 75 年に際して、北部準州豪日協会（AJANT）を日豪両政府が支援して初めて伊 124 の慰霊碑が建立され、2019 年には癒しの木の記念植樹も行われました。ダーウィン空爆 80 年となる本年、AJANT と日本政府・北部準州政府が協力して、乗員 80 名の氏名と階級を記した新慰霊碑を建立し、写真のとおり 3 つが並んで日豪関係者の強い気持ちが伝わる形となりました。

式典にはオハロラン行政官夫妻、ガナー首席大臣、フィノキアーロ野党党首、山上大使夫妻など要人が出席し、ガナー首席大臣と山上大使が除幕と挨拶を行いました。山上大使は[挨拶](#)で乗員各人への追悼の意を表し、ガナー首席大臣はガリポリでのケマル・アタテュルク・トルコ大統領の[ことば](#)を引用して「あなたの息子は我々の胸で安らかに眠り、我々の息子になった」と述べたのが印象的でした。



ダーウィン市主催音楽会での和太鼓を交えたオリジナル曲演奏
(2022 年 2 月 18 日)

●ダーウィン市主催音楽会

2 月 18 日の晩は、ダーウィン市の主催により市内中心部の教会で、ダーウィン空爆当時の歴史を音楽とパフォーマンスで振り返る[音楽会](#)が開催され、山上大使夫妻と私も招待されました。

この音楽会では、地元の楽団 Arafura Wind Ensemble が昨年全豪オンライン大会で金賞に輝いた八木澤教司（やぎさわさとし）作曲の「[ラルゴ](#)」が演奏され、地元の作曲家 Cathy Applegate によるオリジナル曲「[ダーウィン 1942 年](#)」では和太鼓が取り入れられるなど、日豪間の交流の深さを感じました。

ダーウィン空爆の日が地元の人々による文化行事の機会になり、そこに日本の文化が自然な形で取り入れられていることを本当に嬉しく思いました。



ダーウィン空爆戦没者追悼式典での献花（2022年2月19日）

●ダーウィン空爆戦没者追悼式典

2月19日午前、ダーウィン戦没者慰霊碑で、ダーウィン空爆戦没者追悼式典が行われました。80年の節目ということで、ハーレー連邦総督、モリソン首相、アルバニー野党党首などの要人も参列し挨拶、献花する盛大な行事となりました。山上大使夫妻や私、麻生防衛駐在官、AJANT 役員も献花しました。

モリソン首相は挨拶の中で、ダーウィン空爆は豪州にとって自国の存亡を自ら担う契機となったとしつつ、まさにこの場所に自分と安倍総理が立って献花し和解の場所とした、昔の敵は今や最も信頼する誠実な友の一人となったと述べました。

ガナー首席大臣は挨拶の中で、1942年にダーウィンは戦略的要地（key strategic location）にあったために攻撃された、そして現在もインド太平洋の中心で、クアッド、AUKUS、隣国や友好国にとり重要な戦略的要地にある、だからこそ豪州首相と野党党首、米国、更に日本も揃ってこの場にいる、我々は80年を経て今やここまで来たと強調しました。



ダーウィン記念連合教会への総領事表彰授与式典（2022年2月19日）

●ダーウィン記念連合教会への総領事表彰授与式典

2月19日の夕刻、ダーウィン記念連合教会で、オハロラン行政官夫妻、山上大使夫妻の臨席のもと、私から同教会への総領事表彰授与式典を行いました。

ダーウィン記念連合教会は、1960年の設立に際して、ダーウィン港の沈没船引き上げ作業を受注していた藤田サルベージ社から、沈没船のブロンズで铸造された77本の十字架の寄贈を受け、日豪間の和解の永遠の象徴として教会内のあらゆる場所に設置しました。その後も藤田家との親交を続け、2017年のダーウィン空爆75年に際しては、藤田家の墓標となっていた沈没船のスクリューの寄贈を受けて教会前に設置しました。77本の十字架のエピソードは、安倍総理やモリソン首相の演説でも引用され、日豪間の和解の強固な基盤となっています。

以上の経緯を紹介し顕彰した[私の挨拶](#)に続き、連合教会の[ケビンさんの挨拶](#)では藤田家との親交について、[ローレンさんの挨拶](#)では戦後間もない厳しい時期に沈没船引き上げと和解に取り組んだ藤田サルベージ関係者の物語が多くの人たちを感動させたことについて紹介があり、本当に心温まる会合となりました。



北部準州豪日協会（AJANT）役員との懇親会（2022年2月19日）

●未来への基盤をつくる

2月19日の晩は、今回の伊124新慰霊碑建立を推進したAJANT役員との懇親会を行いました。AJANTはダーウィンでの日豪協力推進に尽力し、5年前の最初の慰霊碑建立からの経緯や意義を[ウェブサイト](#)や[和英の動画](#)で紹介しています。

私にとって、ダーウィン空爆関連行事出席は3回目です。[第1回](#)、[第2回](#)と回を重ねるたびに新たな進展がありました。ダーウィン空爆80年に当たる今回は、伊124新慰霊碑の建立とダーウィン連合教会の総領事表彰が実現しました。

日豪間の戦争と和解、交流と協力の歴史を振り返り、それを日豪双方の関係者が共有することを通じて、未来の協力への基盤が確固たるものになると考えています。歴史を通じて未来をつくる。これからも、そのような仕事を続けていきたいと思っています。

在シドニー日本国総領事 紀谷昌彦
(以上)